

広報あつぎ ㊤

Atsugi

Public Relations Paper Atsugi City

特別号

厚木市 2019

事業と予算のあらまし

やまなかじんやあとしせき
山中陣屋跡史跡公園で撮影

2019年度の目玉事業を一挙に紹介



2019年度 施政方針要約

厚木市長 小林常良

市議会第1回会議の初日、施政方針演説で本年度の市政運営の考え方や重点的に取り組む施策を表明しました。議会では総額1465億8368万4千円の「あつぎ元気大志予算」が成立。市民の皆さまが、将来にわたって元気で幸せに暮らせるまちの実現に向けて、大きな志を持って市政運営に取り組んでいきます。



昨年、市と市民が協働して安心・安全なまちをつくるセーフコミュニティ活動が10年を迎え、11月には活動や研究の成果を発表する国際会議を市内で開催した



浸水被害対策のため、あさひ公園地下に整備中の雨水貯留施設は8月に完成予定

大きな志と市民力を持って 将来に向けたまちづくりを

4期目となる市政のかじ取りをお願いいただきました。今、改めてその責任の重さを感じています。

これまで「市民協働」や「現地対話主義」を信念に、市民の皆さまと気持ちをつなげて、全力でまちづくりを進めてきました。正しい市政運営の在り方は、皆さまの声を聴き、本当に望んでいることを理解して、共に寄り添い歩むことであると考えます。今、社会は、人口減少や少子高齢化の進展、災害の激甚化など、これまで経験したことのない時代を



市議会第1回会議の様子

迎えています。このような中、真に正しい政策を正しい方法で実践することにより、最良の結果となるよう、市民の皆さまと共に着実に歩んでまいります。

今年の市政運営のテーマは「大志」です。誰もが明るく元気で幸せに暮らせる日本一のまちの実現に向けて、新たな挑戦に立ち向かう大きな志を持って、全力で取り組みます。

あつぎの元気大志予算を編成

本年度は、将来を見据えた長期的な視点や市民ニーズを踏まえ、「人口の将来展望を実現する地方創生の推進」「誰もが生き生きと生活できる地域包括ケア社会の実現」「将来にわたって活力あるまちであり続けるための都市基盤整備の推進」「防災・減災対策の強化による安心・安全の推進」「2020年東



急速に進む高齢化やライフスタイルの変化に対応するため、市内に10の地域包括支援センターを整備。地域の困りごとなどの相談を受け付けている



予算会見で記者団に目玉事業を説明

京オリンピック・パラリンピックを契機としたレガシーの創出」「中心市街地の魅力や利便性の向上」の六つの重点プロジェクトを中心とする「あつぎの元気大志予算」として編成しました。一般会計は過去最大となる863億円、特別会計を合わせた総額では1465億円を超える予算規模となっています。

中でも本年度は、特に皆さまのニーズや関心が高く、将来にわたり財産を残すことにつながる「活力ある中心市街地」と「安心・安全」の事業に優先的に取り組みます。中心市街地の整備では、2020年の完成に向けた本厚木駅南口の再開発事業の進捗をはじめ、整備を進めていた(仮称)旭町2丁目自転車等駐車

場や厚木南地区の雨水貯留施設が完成し、中心市街地の魅力と利便性、安全性が向上します。安心・安全の推進では、避難所に非常電源設備を整備する他、市内15地区の地区別防災マップの作成や相川・南毛利分署の整備、人命救助のエキスパートで編成する高度救助隊の発足など、災害に強いまちづくりを進めます。

さらに本年度は、本市のまちづくりの方向性を定める総合計画「あつぎ元気プラン」の最終年度の前年に当たり、集大成に向けた重要な年でもあります。「総仕上げ実行プラン」と位置付けた第4期実施計画を、着実に、そして効果的に進めるために、予算編成の柱に掲げた六つの重点プロジェクトを積極的に推進し、本市の未来を担う新たな総合計画への橋渡しとなるよう取り組んでまいります。

大きな志と強い絆でさらなる発展を

持続的な市政の発展には、課題

に対応するために常に一步先を行く、新たな挑戦に立ち向かう大きな志が必要です。しっかりと現状を把握し、導き出される課題に対して根拠に基づいた政策運営を進め、効果を検証しながら次の展開へとつなげていくことが大切です。市民の皆さまとの協働で育んできた強い絆を原動力に、まちづくりを進めます。

「あつぎ元気プラン」に掲げる将来都市像「元気あふれる創造性豊かな協働・交流都市 あつぎ」の実現のため、皆さまのお力添えを心からお願い申し上げます。



昨年に日経DUALと日本経済新聞社が調査した「共働き子育てしやすい街ランキング」では、全国3位を獲得

あつぎの元気大志予算	P5
一般会計をチェック	P6
六つの重点項目別主要事業	
① 地方創生の推進 《目玉事業》待機児童対策放課後児童クラブ施設整備補助金	P8
② 地域包括ケア社会の実現 《目玉事業》地域公共交通等対策事業	P10
③ 防災・減災対策の強化 《目玉事業》指定避難所等対策関連事業	P11
④ 都市基盤整備の推進 《目玉事業》酒井土地区画整理関連事業	P12
⑤ 中心市街地の魅力・利便性の向上 《目玉事業》中町第2-2地区周辺整備関連事業・本厚木駅南口地区市街地再開発関連事業	P14
⑥ 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたレガシーの創出 《目玉事業》オリンピック・パラリンピック支援推進事業	P16
元気あふれるまちを目指して あつぎ元気プランの着実な推進	P17
市民協働のまちづくり	P18

あつぎ市民ふれあい都市宣言

厚木市は、先人のたゆまぬ努力により、自然と調和する都市として発展してきました。そして今、少子高齢化の進展や価値観の多様化により、人と人との関係が変化し、市民相互の絆(きずな)がより大切になっています。

私たち一人一人が地域に関心を持ち、日頃から助け合い、市民協働により、身近な課題に取り組むことで、笑顔で暮らせる安心・安全なまちをつくることができます。

家庭や地域で思いやりの心を育み、ふるさと厚木を世代を超えて愛し、誇れるまちとするため、ここに「市民ふれあい都市」を宣言します。

ふれあいの家庭づくり

家族との絆(きずな)を深め、人を思いやる豊かな心を育み、ぬくもりのある「心ふれあう家庭」をつくりましょう。

ふれあいの地域づくり

地域に暮らし、働き、学ぶ中で、地域活動の輪を広げ、みんなで支え合う「心ふれあう地域」をつくりましょう。

ふれあいのまちづくり

人とのつながりの輪を広げ、希望に満ちた、未来に輝く「心ふれあうまち厚木」をつくりましょう。

2019年度 あつぎの元気大志 予算

予算
総額1465億8368万4千円
(前年度比0.4%減)

本年度の予算は、全国に誇れる市民力と大きな志を持って、将来に向けたまちづくりを進める「あつぎの元気大志予算」として編成しました。総額は、1465億8368万4千円で、前年度と比較して6億4445万2千円の減額(0.4%減)となります。

☎ 財政課 ☎ 225-2170

一般会計

過去最大

総額863億円
(前年度比0.1%増)

6・7ページへ

国の補正予算でさらに追加

一般会計の総額863億円に加え、国の補正予算を活用して事業を追加しています。
プレミアム付商品券発行関連事業 約4億4000万円

特別会計

総額474億7600万2千円
(前年度比1.9%減)

五つの特別会計

特別会計は、特定の歳入を特定の歳出に充て、目的に応じて使う会計です。

公共用地取得事業

● 14億1900万2千円(前年度比22.3%増)
公共用地の先行取得など

後期高齢者医療事業

● 28億1600万円(前年度比2.5%増)
後期高齢者への医療給付に必要な保険料の徴収など

国民健康保険事業

● 226億5500万円(前年度比5.2%減)
国民健康保険料が主な財源で、被保険者が病気やけがなどした場合の給付など

介護保険事業

● 145億9800万円(前年度比6.9%増)
介護保険料が主な財源で、被保険者が介護サービスを利用した場合の給付など

公共下水道事業

● 59億8800万円(前年度比13.8%減)
下水道使用料が主な財源で、下水道の建設や維持管理など

公営企業会計

総額128億768万2千円
(前年度比1.6%増)

公営企業会計は、民間企業と同じように事業収入で運営している事業の会計です。市では病院事業が該当します。

病院事業会計

市立病院の運営

● 収益的収支(前年度比)
収益 111億8354万6千円(6.7%増)
費用 116億363万8千円(5.6%増)

● 資本的収支(前年度比)
収入 6億4255万3千円(40.5%減)
支出 12億404万4千円(25.8%減)

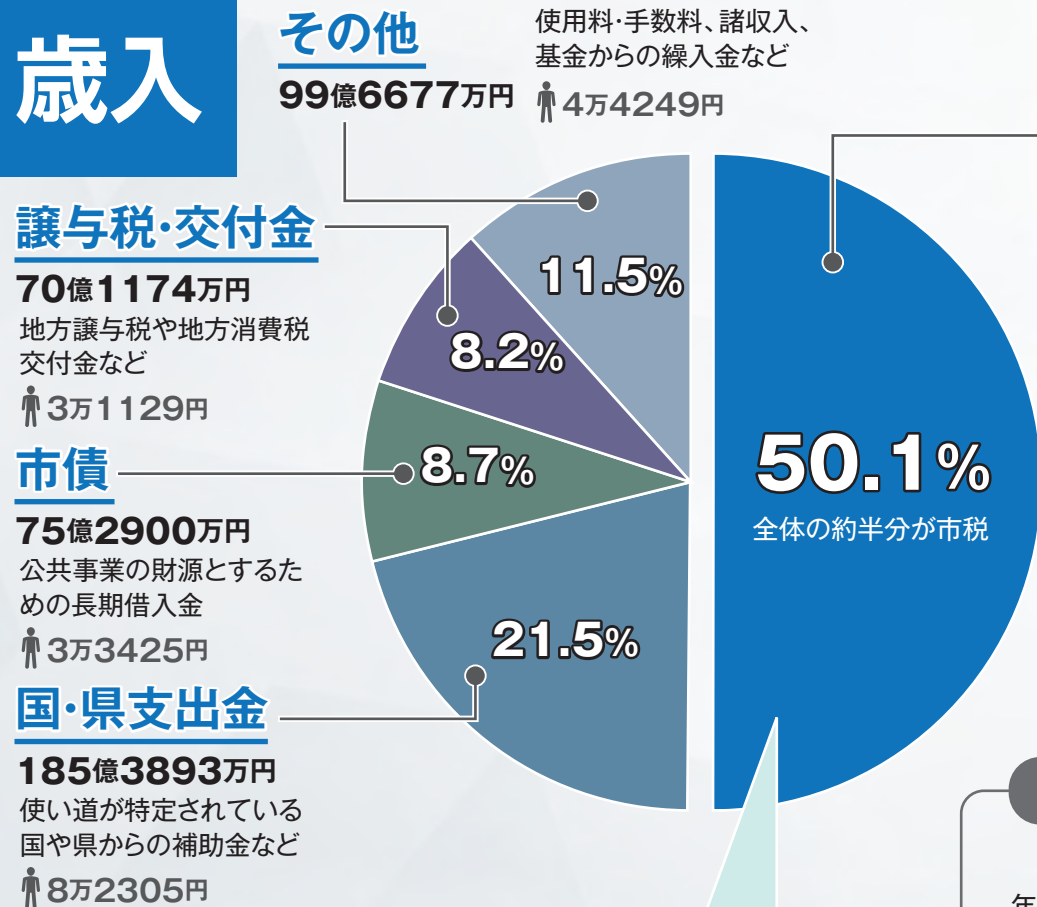
※ 資本的収支の不足額5億6149万1千円は、消費税と地方消費税資本的収支調整額で補てんし、不足する額は運転資金で措置します。

一般会計をチェック

一般会計は、福祉や防災、道路、教育など市の基本的な仕事の収入と支出を管理する会計です。

市民1人あたりに換算した金額
※人口22万5247人(2019年1月1日現在)を基準に算出

歳入



市税

432億5356万円
市民税や固定資産税、都市計画税など(内訳は下表参照)
19万2027円

貯金と借金

貯金(=基金)

年度間の財政調整をする財政調整基金の他、教育、文化振興・災害対策など特定の目的で積み立てる資金です。

〈基金の合計額〉

126億974万円
(本年度末見込み額)
5万5982円

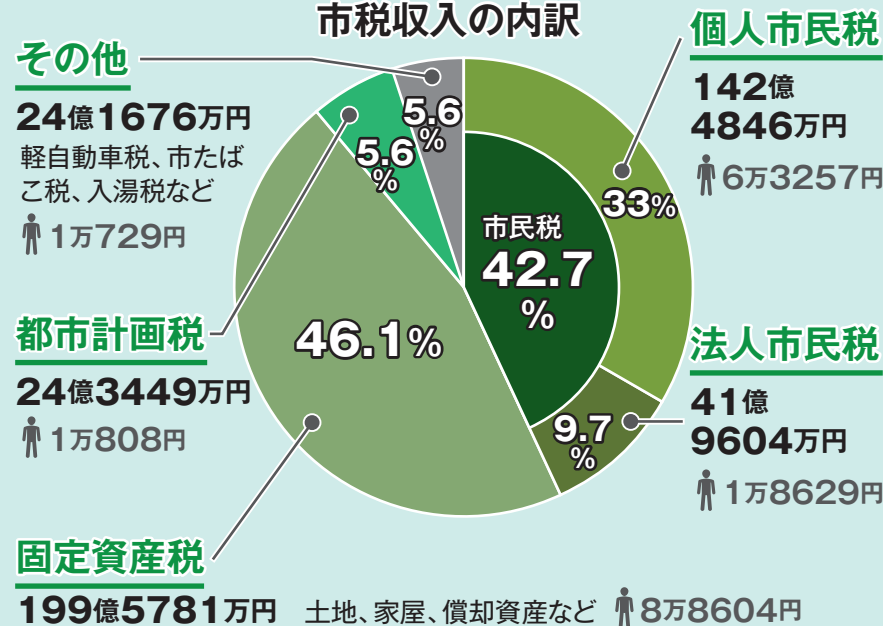
借金(=市債)

学校や道路など、長期にわたって使用する公共施設の整備に必要な市債(長期借入)を発行します。

〈市債の残高〉

560億2815万円
(本年度末見込み額)
24万8741円

市税収入の内訳

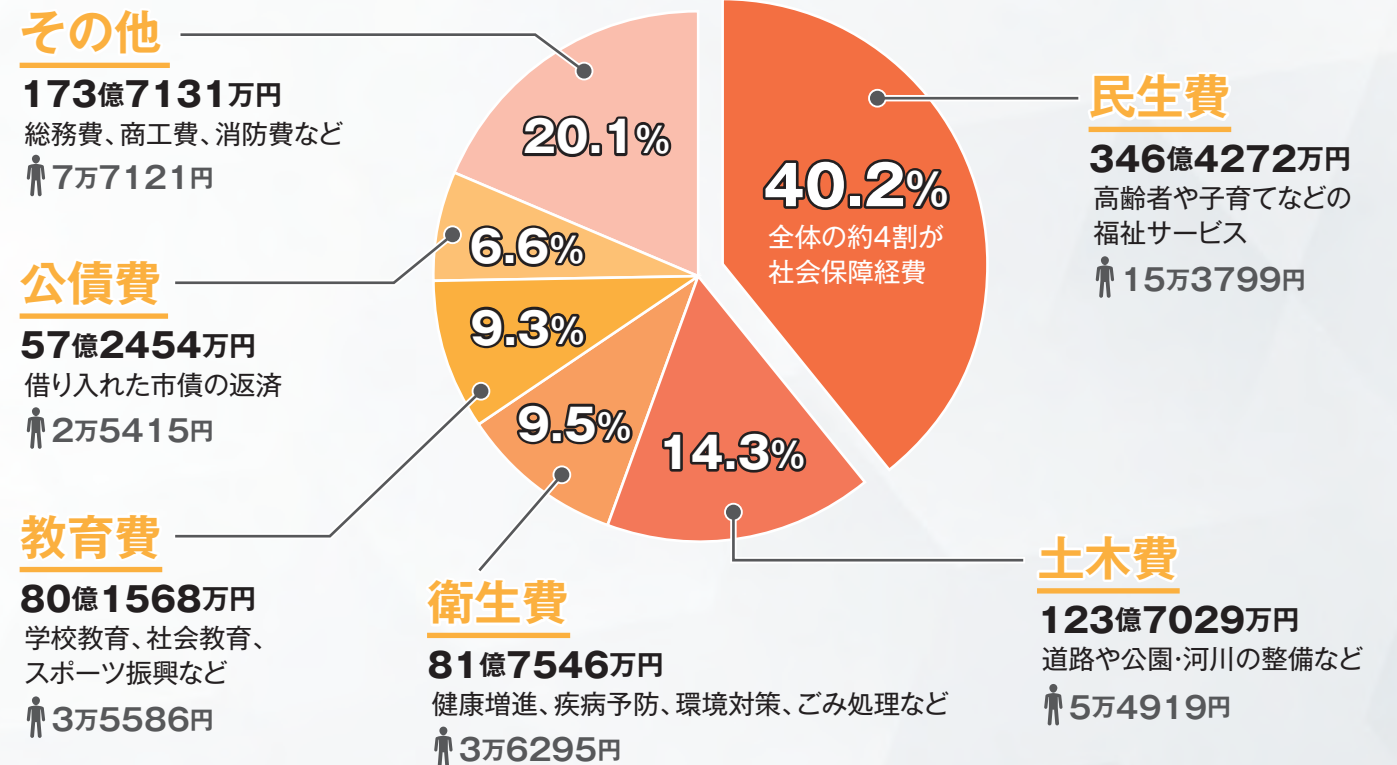


歳出

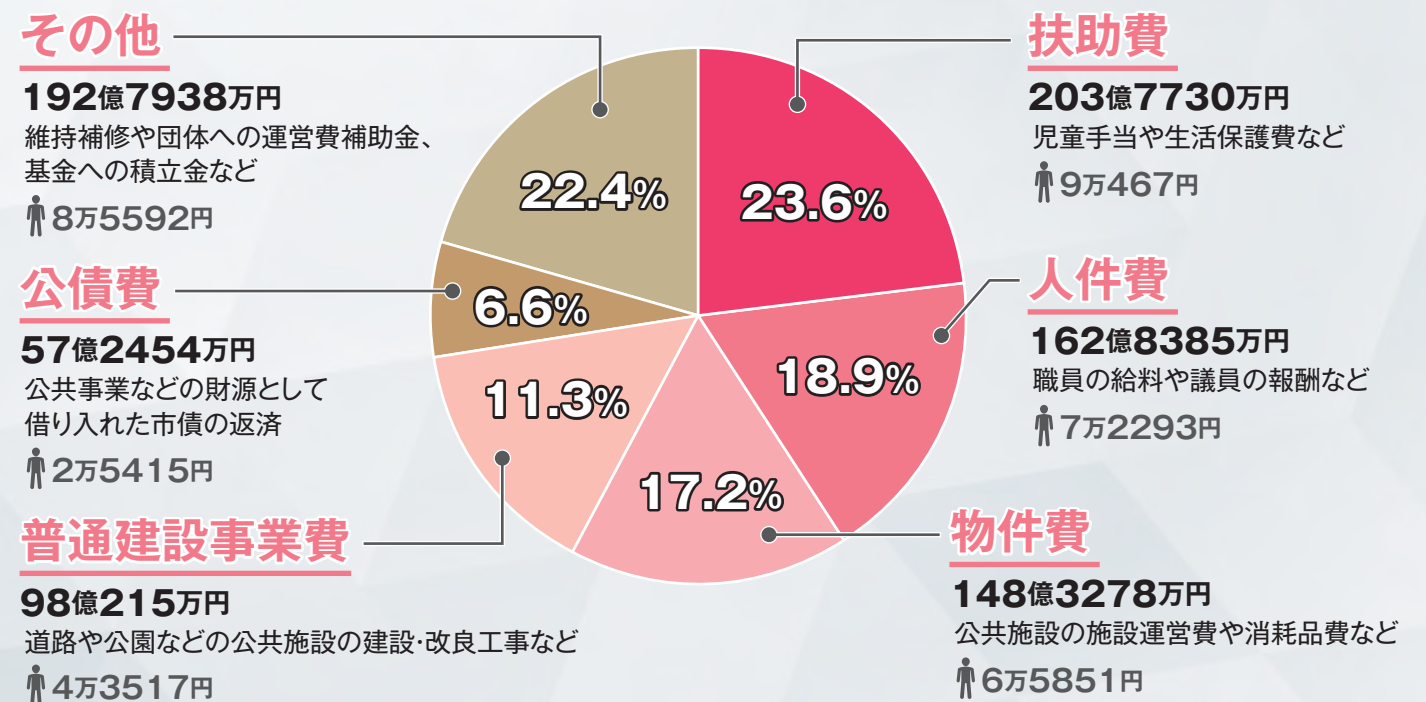
どんなことに使われているの?

総額 863億円 38万3135円

目的別 福祉や教育など、行政の目的に着目した歳出の分類



性質別 人件費や扶助費など、経費の経済的性質に着目した歳出の分類



あつぎの元気大志予算 六つの重点プロジェクト事業

1 人口の将来展望を実現する 地方創生の推進

まちの魅力を高め、将来にわたって活力あるまちづくりを進めます。

目玉事業

放課後児童クラブの待機児童をゼロへ

待機児童対策 放課後児童クラブ施設整備補助金

新規

1310万円 こども育成課

共働きなどで放課後に保護者が家にはいない児童の居場所を確保するため、民間の児童クラブを開所する事業者を支援します。施設整備などにかかる経費を補助し、待機児童の解消を進めます。

- 【開所時期】2020年4月予定
- 【設置地域】清水小、妻田小の学校区域内
- 【定員】40人
- 【対象】地域内の児童、他校放課後児童クラブの待機児童
- 【入所基準、利用料など】市の放課後児童クラブに準じる



保育士するなら厚木に生まれ

保育士応援・サポート事業

6900万円 保育課

新規

子どもたちを安心して預けられる保育環境を整えるため、市内で働く保育人材の確保や離職防止策を強化します。

- 保育士雇用サポート事業補助金
保育施設を運営する法人に、人材を雇用するために必要な経費の一部を助成します。
- 【補助額】認可保育所……上限75万円
小規模保育施設……上限60万円
- 【対象】①保育士などに支給した住居手当や資格手当、特殊業務手当
②人材募集広告の経費
③採用のための人材紹介会社などへの手数料
④学生へPRするための大学や短期大学などへの出張旅費

■保育士応援手当助成金

市内認可保育所や小規模保育施設に就労している保育士などに助成金「あつぎ手当」を支給します。

【助成額】年間6万円

【対象】保育士、国家戦略特別区域限定保育士、保健師、看護師



勤務の多忙化・長時間化を改善

教職員の働き方 改革関連事業

新規

1096万2千円
教育指導課、教職員課、学務課

教職員の勤務環境を見直して、健康管理や働き方を改善し、児童や生徒一人一人と向き合う時間を確保します。

- 教職員出退勤管理システム導入
勤務時間を客観的に把握するため、出退勤の記録を残すタイムレコーダーを全市立小・中学校に導入します。
- 学校電話音声応答装置設置
勤務時間外の電話対応を減らすため、全市立小・中学校に電話音声応答装置を設置します。
- 部活動指導員配置
部活動の顧問教員の負担を減らすため、技術指導や大会への引率、けがの対応などを担う部活動指導員を、市立中学校2校で試験的に配置します。

江戸時代の厚木を描いた有名画家

(仮称) 渡辺崋山展 プロジェクト事業

新規

212万5千円 文化財保護課

あつぎ郷土博物館に備えた高規格の企画展示室を活用し、江戸時代に厚木を訪れた画家・渡辺崋山の貴重な作品を展示する展覧会の準備を進めます。開催は、2020年度を予定しています。

清潔で快適な学びの場に

小・中学校トイレ 改修事業

拡充

5億2164万1千円 学校施設課

子どもたちが安全で快適な環境で学校生活を送れるよう、市立小・中学校のトイレ改修を進めます。



2020年度
全校完了予定

厚木の魅力を全国に発信

観光プロモーション事業

新規

368万7千円 観光振興課

観光プロモーション動画の作成や、小田急電鉄株式会社と連携したプロモーション活動、大山ケーブル駅へのPR看板の設置など、観光客の誘致を進めます。



見えやすい入口正面のPR看板

2 誰もが生き生きと生活できる 地域包括ケア社会の実現

誰もが健康で生きがいを持ちながら、住み慣れた地域で自分らしく暮らせるまちを目指します。

目玉事業

地域の新たな移動手段を構築

地域公共交通等対策事業

1100万円 都市計画課

通院や買い物などで移動に不便を感じている方を支援するため、地域の公共交通を強化します。



■ユニバーサルデザインタクシー導入促進の補助金

乗降口が低床で車いすに乗ったまま乗車できるなど、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインタクシーの導入費用を補助します。

【補助額】1台当たり20万円

■地域公共交通活性化・再生検討

地域に必要な移動手段を確保するコミュニティ交通の導入に向け、引き続き実証実験を実施します。

【これまでの取り組み】

2018年に、鳶尾地区、まつかけ台・みはる野地区でジャンボタクシーを使った実証実験を実施

新規 拡充

モデル地区で戸別収集を試行

ごみ減量化・資源化推進事業

191万1千円 環境事業課

家庭ごみの減量と資源化の推進やごみ出し負担の軽減を目指し、5月から1年間、金田・まつかけ台・小野の3地区をモデル地区として「もえるごみ」の戸別収集を試行します。



拡充

悩みや困りごとは気軽に相談を

高齢者・障がい者支援 関連事業

2億169万6千円

介護福祉課、障がい福祉課 他

相談支援体制を強化するため、荻野・依知地区に地域包括支援センターと障がい者相談支援センターが併設する施設を設置。旧荻野埋蔵文化財展示・収蔵室と旧依知公民館を改修して活用します。介護職や看護職などの人材確保にも取り組みます。



新規 拡充

定期的な受診で早期発見

がん検診事業

4億8299万8千円 健康づくり課

がんの予防や早期発見のため、乳がんの施設検診で、視触診に加えてマンモグラフィー検査を実施します。

拡充

3 安心・安全の推進 防災・減災対策の強化

地域と連携して、地震や風水害などの災害対策に取り組みます。

目玉事業

いざという時に備え、設備を充実

指定避難所等対策 関連事業

3560万円 危機管理課

災害時に身を置く指定避難所の設備を整える他、いざという時の指定緊急避難場所が一目で分かるよう、周知プレートを設置します。



■指定避難所の機能を整備

大規模災害による停電を想定し、指定避難所となる小・中学校に、電力確保のための非常電源切り替え設備を整備します。

■指定緊急避難場所を周知するプレートを設置

地区市民センターや老人憩の家などに、避難場所であることを示すプレートを設置。医療機関には、災害時に診療できる状況かを掲出できるのぼり旗を配布します。



新規

市民協働による災害対策

防災対策関連事業

2000万8千円 危機管理課

市民一人一人の防災意識を高め、地域の防災力向上につなげるため、災害種別ごとの対応方法を分かりやすく記した「防災ポケットブック」を全戸配布します。さらに、市内15地区ごとに市民の皆さんと協働で災害時のリスクや課題を洗い出し、「地区別防災マップ」を作成します。

新規

命を救うための備えを

災害時医療対策事業

952万2千円 危機管理課

災害時の被害を減らすため、厚木医師会に大型エアートントや担架などを貸し出し、いざという時の医療体制を強化します。

新規

屋外での部活動や学校行事も安心

小・中学校屋外AED設置事業

992万6千円 学務課

屋外活動中の子どもたちや学校施設一般解放時の利用者の急病やけがに備え、全市立小・中学校の屋外に自動体外式除細動器(AED)を設置します。

新規

中心市街地の浸水被害を軽減

公共下水道厚木排水 区等浸水対策事業

公共下水道事業特別会計
7億4500万円 下水道施設課

局地的集中豪雨による浸水被害の軽減のため、あさひ公園地下に整備している雨水貯留施設が8月末に完成。さらに、厚木北地区にも新たに雨水貯留管を整備します。



新規

市民の命と財産を守る拠点を整備

消防庁舎整備関連事業

7152万4千円 消防総務課

2021年度
完成予定

地震や台風、火災などの各種災害に迅速・的確に対応するため、消防・防災の拠点である南毛利分署と相川分署を移転し、整備します。

■南毛利分署新築事業費 4986万3千円

■相川分署新築事業費 2166万1千円

拡充

4 将来にわたって活力あるまちであり続けるための 都市基盤整備の推進

新たな産業拠点の創出や道路整備に取り組み、地域経済を活性化します。

目玉事業

南部地域に新たな産業拠点

酒井土地区画整理関連事業 新規

4010万円 まちづくり推進課

新たな産業拠点の創出に向け、酒井地区(約27%)の土地区画整理の事業化を目指します。9月には、土地区画整理組合の設立が予定され、市は補助金や技術的な援助などで組合を支援します。



酒井地区完成イメージ

2024年度
工事完成予定

企業誘致や物流の効率化に一手

スマートインターチェンジ整備関連事業

11億7423万6千円
道路整備課、道路維持課

圏央道の有効活用による地域経済の活性化や交通渋滞の解消を目指し、厚木パーキングエリアにスマートインターチェンジを整備。周辺の相模川右岸堤防道路も合わせて再整備を進めます。

【期待される効果】

- ・上依知や猿ヶ島地区、座間市からのアクセス向上
- ・救命救急センターへの搬送時間短縮
- ・企業誘致の促進



2020年度
供用開始

市内で半世紀ぶりの工業系都市計画事業

森の里東土地区画整理関連事業

4億2887万3千円 まちづくり推進課

下古沢・上古沢・愛名・森の里青山地区で約68畝の土地区画整理事業を進めています。2018年にはA工区で立地企業の操業が始まり、今年7月には新たに1社の操業開始が予定されています。引き続き自然環境に配慮しながら、20年度にB工区、23年度にC工区の工事完成・立地企業の操業開始を目指します。

【本年度の主な取り組み】

- ・市補助金の交付、公共施設管理者負担金の支出
- ・関連排水路の整備



A工区



厚木西高校

厚木市斎場

厚木環状3号線



B工区



C工区

国道246号などの渋滞解消に期待

厚木秦野道路用地取得事業

公共用地取得事業特別会計
9億9025万円 道路管理課

圏央道・圏央厚木インターチェンジから(仮称)秦野インターチェンジまでの29.1kmを結ぶ自動車専用道路「厚木秦野道路(国道246号バイパス)」の早期整備に向け、国の用地国債先行取得制度を活用し、道路整備に必要な用地を国に代わって取得します。市が取得した用地は、4年以内に国が買い戻します。



地域経済の活性化に向けて

街路整備関連事業 拡充

17億3829万6千円 道路整備課

安全で快適な交通ネットワークを作るとともに、新たに産業拠点として開発する地域などへのアクセスを良くするため、都市計画道路を整備。企業誘致につなげます。

■厚木環状3号線

森の里東土地区画整理事業施行地区への主要アクセス道路として整備。

2020年度
完成予定

■本厚木下津古久線

新東名高速道路厚木南インターチェンジや酒井地区などへのアクセスを良くするために整備。

交通網の発展とともに整備

山際・山際北部土地区画整理関連事業

769万円 まちづくり推進課

新たな産業拠点の創出に向け、山際(約22%)・山際北部(約17%)地区の土地区画整理の事業化を目指します。本年度は、権利者組織の運営支援などを進めていきます。

5 にぎわいあふれるまちに 中心市街地の魅力や利便性の向上

中心市街地の施設や設備を整備し、快適で住みよいまちをつくります。

目玉事業

まちの将来を担う重要プロジェクト

中町第2-2地区周辺整備関連事業

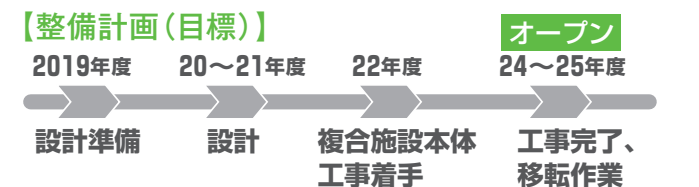
新規 拡充

2億4046万円 市街地整備課、道路整備課



本厚木駅から近く利便性の高い中町第2-2地区に、図書館や(仮称)こども未来館、市庁舎を集約した複合施設を整備する準備を進めています。歩行者や自動車など交通の利便性を確保するため、周辺道路や厚木バスセンターの機能向上などの検討も進めます。

【本年度の主な取り組み】
 ・複合施設基本計画を策定後、基本設計に向けた設計者選定の準備
 ・市道A-5号線とA-358号線の交差点の整備、都市計画道路中町北停車場線の整備計画の検討



目玉事業

待望の再開発事業が着々と進行

本厚木駅南口地区市街地再開発関連事業

6億5949万1千円 市街地整備課

魅力ある駅周辺の顔づくりに向け、本厚木駅南口の再開発を進めています。現在、再開発ビルは地下部分を工事中。駅前広場の歩行者デッキを架設し、駅側の歩道部分の工事に着手しています。さらに、本年度はビルの地上12階までの躯体工事を予定。商業・業務・居住などの複合的な都市機能の整備を進めます。

【面積】約0.8ha(駅前広場の拡充整備を含む)

- 【整備内容】**
- 1 再開発ビル
構造：地下2階、地上22階建て
用途：店舗、事務所、住宅(約163戸)、駐車場(約100台)、市営駐輪場(約600台)など
 - 2 駅前広場
・3460平方メートルから4270平方メートルに拡充
・バスやタクシー、身体障がい者の乗降場、一般車乗降場、歩行者デッキを設置



本厚木駅南口地区完成イメージ

交通の利便性を向上

(仮称)旭町2丁目 自転車等駐輪場整備事業

拡充

2億1368万7千円 交通安全課

自転車などを利用する方の利便性を向上させるため、駅南部(旧厚木労働基準監督署跡地)に新たな駐輪場を整備します。



自転車等駐輪場整備イメージ

まちの第二の玄関口に

愛甲石田駅周辺 整備関連事業

拡充

3750万6千円 市街地整備課、道路整備課

森の里東土地区画整理事業や南部産業拠点の整備による駅利用者の増加に対応するため、駅北口広場の拡張や周辺道路の交通環境の改善に向けた整備構想を作成します。加えて、2018年に買収した駅前広場の用地



買収した駅前広場の用地

1日乗降客15万人の安全を守る

本厚木駅ホームドア 設置事業補助金

新規

1000万円 都市計画課

鉄道事業者が本厚木駅のホームに設置する、転落や列車との接触事故を防止するホームドアの設置費用を一部補助します。工事は本年度から開始されます。



ホームドア設置イメージ

現在の本厚木駅ホーム

6 2020年 東京オリンピック・パラリンピック を契機としたレガシーの創出

運動や観光客誘致環境を向上し、スポーツや文化を振興します。

目玉事業

世界最高峰の舞台に向けた万全の準備を オリンピック・パラリンピック 支援推進事業

5300万円 企画政策課

2020年東京オリンピック・パラリンピック(東京五輪)に向けて、ホストタウン相手国であるニュージーランド(NZ)などの各競技協会と事前キャンプの基本合意をはじめとする調整を進めます。開催1年前に合わせてイベントを実施するなど、市内での競技理解を深めるとともに、教育交流をはじめとするホストタウン交流事業を充実させていきます。

【取り組み状況、今後の予定】

- 19年2月 NZバスケットボール協会とキャンプ誘致に関する基本合意
- 19年7・8月 東京五輪1年前イベントを開催、男女バスケットボールNZ代表キャンプ受け入れ
- 19年8月 市教職員のNZ派遣研修
- 19年8月、20年3月 FLY TO NZ PROJECT(中高生のNZ留学体験プログラム)



運動で心も体も健康に 市民スポーツ推進事業

2022万7千円 スポーツ推進課

市体育協会や日本体育大学と連携してイベントや講座を開催し、市民の皆さんがスポーツに親しむ機会を広げ、体力向上や健康増進、将来のトップアスリートの育成などを進めます。



訪日外国人をおもてなし 受入環境整備事業 補助金

150万円 観光振興課

観光関連事業者などを対象とした研修の実施や外国語の案内表示にかかる経費への支援を通じて、訪日外国人をはじめとした観光客の受け入れ環境を整備し、観光地としての魅力を高めていきます。

国際社会で活躍できる人材を育成 英語教育推進事業

4350万円 教育指導課

市立小・中学校での授業や教員研修を通して英語教育を充実させます。さらに、2020年東京五輪で訪れた外国人と交流する子どもたちを育成します。

その他の主要な事業

あつぎ元気プランの着実な推進

市民の健康づくりと憩いの場に ふれあいプラザ 再整備事業

拡充

3388万4千円 環境事業課

市民の憩いや健康増進の場として親しまれているふれあいプラザを、PFI(Private Finance Initiative)手法^(※)で再整備します。

^(※)民間資金を利用して施設整備とサービスの提供を委ねる手法

【整備基本方針】

- 1 健康増進を中心とした複合拠点
- 2 幅広い世代が訪れたい憩いの場
- 3 利便性の高い交通アクセスや駐車台数の確保
- 4 地域の防災拠点



2023年度
完成予定

新たな給食センターを整備 中学校給食施設 整備事業

拡充

2億1937万9千円 学校給食課

中学校で、よりおいしく質の高い給食を食べられるよう、PFI手法で学校給食センターを整備します。2022年度に完成予定です。



インターネットで暮らしを便利に マイタウンクラブ リニューアル事業

新規

1731万2千円 情報政策課

公共施設の予約や講座・イベントなどの申し込みをするマイタウンクラブシステムを、全面リニューアルします。市民の皆さんのニーズを踏まえながら、最新の情報通信環境に対応したシステムを構築します。

新たなビジネスモデルの創出と 耕作放棄地の再生に役 再生可能エネルギー 推進事業費補助金

新規

20万円 環境政策課

再生可能エネルギーの利用を普及するため、農業を営む傍ら農地での太陽光発電で収益を得る「ソーラーシェアリング」の設置者に、設置費の一部を補助します。

【補助額】

太陽光発電出力
1キロワット当たり1万円
(上限20万円)



写真提供：
(一社)全国営農型発電協会

ソーラーシェアリングの設置イメージ

全公園灯のLED化は県内初 公園灯LED化事業

新規

470万円(10年で総額1億4千100万円見込み) 公園緑地課

市内にある221の公園全ての灯具を、環境負荷が少なく長寿命のLED電球に取り替えます。二酸化炭素の排出量を減らせるため地球温暖化防止につながり、維持管理費用も削減できます。



市民力をまちの力に

「大好きな厚木がもっと活気づいてほしい」。住み慣れた地域の発展は、市民共通の願いです。いつまでも住みよいまちで在り続けるために、市は、市民の皆さんとの協働で厚木ならではのまちづくりを進めています。ここでは、まちをより良くしていこうと、さまざまな分野で活躍する皆さんに話を聞きました。

自分たちのまちは自分たちでつくる



2018年度
自治会連絡協議会会長
神保 忠男さん

自治会は、住民にとって最も身近な地域の集まりです。イベントの開催や見守り活動、防災訓練などを通じて、交流を楽しみながら絆を深めています。

8年間自治会長を務め、地域に必要なことは何か、ずっと考えてきました。自分たちのまちは自分たちでつくる。まちづくり

を担うのは、市だけではありません。そこに暮らす住民たちが知恵を出し合い、市と力を合わせて課題解決に当たっていかなくては、思い描く住みやすい地域をつくることはできません。考えは十人十色ですから、時には話がまとまらず、解決に時間がかかることもあるでしょう。しかし、皆で一つのことに取り組む過程の中で、強い結束力が確実に育まれていきます。

地域の交流や支え合いは、私たちの暮らしを豊かにしてくれます。住んでいる人たちが幸せだと思えるような市民協働のまちづくりが、若い世代にも引き継がれ、将来にわたって続いていくことを願っています。



子どもたちの登下校を見守る愛の目運動



交流が楽しい自治会の祭り



地域一体となって取り組む防災訓練

産業の力でまちに活力を

厚木市は東名高速道路や圏央道などの道路交通網が発達し、物流や経済活動の拠点として大きな優位性を持っています。自然が豊かで温泉があるなど、多くの資源にも恵まれたまちです。

産業の発展は、税収面や雇用の創出などの観点から、まちの将来に欠かせない重要な要素です。これからも活力あるまちであり続けるためには、市が進めている都市整備をはじめ、厚木ならではの資源を有効に活用することが必要です。

国内では人口減少が待ったなしの状況の中、今後は、自治体の枠を超えた広域的な連携なども重要になってくるでしょう。市内で充実した企業活動や商売を営める環境を整えられるよう、市と強いタッグを組んでまちづくりを担っていきます。

市内企業への入社を祝う合同入社式



厚木商工会議所 会頭
中村 幹夫さん

今こそ力を結集する時

社会は今、急速な少子高齢化やライフスタイルの多様化に直面しています。財源確保が厳しい現代では、これまでの医療・介護のシステムを維持するだけでは対応できません。介護や医療、生活支援などに携わる人たちが連携し、必要な人に必要な支援を提供できる社会の仕組み作りが急務となっています。

市内では、地域包括支援センターを拠点に各地で活躍するボランティアなどとの連携が進み、支え合いの輪が広がっています。何かあれば病院に行けば良いという時代は、過去の



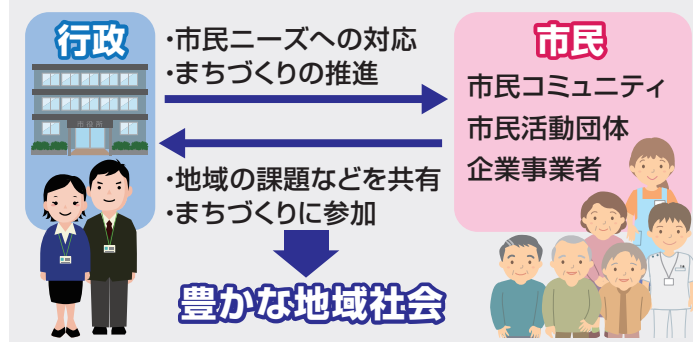
気軽に相談できる地域包括支援センター



地域包括ケア推進会議会長、
三思会(東名厚木病院)理事長
野村 直樹さん

ものです。今こそ力を合わせて、誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる「地域包括ケア社会」を実現させましょう。

市民協働のまちづくり



柔軟な発想で未来を開く



市民協働提案事業「ez」
実行委員長

山口 三重子さん



昨年開催したezの様子

昨年、市の市民協働事業提案制度を活用して、相模人形芝居とジャズの共演「ez」を開催しました。費用や環境面などで市の支援を受けながら、真剣に伝統芸能の未来を考え、市民ならではのアイデアを盛り込んだ今までにない舞台を実現することができました。

今回の公演に限らず、市民一人一人の柔軟な発想や草の根の活動は、まちを大きく発展させる可能性を秘めていると思います。これからも、地域資源を活用した市民協働のまちづくりが進むことを期待しています。

まちの魅力を市民が発信

大学入学をきっかけに、厚木を訪れるようになりました。駅周辺は飲食店や買い物する場所が充実していて便利ですし、少し足を伸ばせば自然も味わえて落ち着きます。住みやすい場所というのが第一印象です。

せっかく厚木ならではの魅力がたくさんあるのに、それを知らずに過ごしてしまう若者は多いと思います。実際にそこで暮らす人たちが、SNSなど多くの人に情報が届く方法で魅力を拡散していくと、さらにまちが盛り上がっていくと思います。



地方創生推進プロジェクト
メンバー
棟方 香名さん



市内企業の若手社員が市の魅力を学生に伝える「あつぎLIFE」を2月に開催

企業活動を地域に還元

昨年、市内に本社工場を新設しました。市が企業誘致策として進められている税の軽減をはじめ、充実した物流網や今後の都市整備計画に魅力を感じています。

今回の新設に当たり、市の援助を受けて企業内保育施設を設置しました。就労意欲があっても働けなかったという方が意外にも多く、雇用の確保につながっていると実感しています。また、地域の皆さんに親しみを持っていただけるよう、直売所や工場を自由に見学できる

コースも設置しました。社会見学などで子どもたちの学びの場として活用してもらえたらうれしいです。

災害時に飲料水を提供する協定を市と締結

災害時に飲料水を提供する協定を市と締結



災害時に飲料水を提供する協定を市と締結

学びをより豊かなものに

保護者と地域住民が学校と協働で子どもたちの学びを支えるコミュニティ・スクールの活動に参加し、家庭科の授業などをお手伝いしています。私のような特別な知識のない普通のおばちゃんでもできますし、子どもたちとの交流でたくさんの元気をもらっています。活動を続けてきて、地域と学校・子どもたちの距離が年々縮まってきているように感じています。

地域住民がふらっと立ち寄れるような「開かれた学校」にしていくことで、学校は住民の多様な経験を子どもたちに伝えられる場になり、地域にとって身近で親しみのある場所

になると思います。今後は、より多くの方に参加してもらえるよう宣伝し、学校を支える人材を循環させる仕組みを整えていきたいです。

地域住民が学校運営に参加



地域住民が学校運営に参加



株式会社プレシア
代表取締役社長
滝口 勝寿さん



相川小学校学校運営
協議会会長
池邊 史子さん



市自治会連絡協議会は2017年に、地域への貢献をたたえる「地方自治功労者」として総務大臣から表彰を受けた。市と協働してまちづくりを進める取り組みが全国的にも高い評価を受けている

総務大臣
表彰を
受賞

厚木イベントカレンダー

四季折々のイベントを紹介します。厚木の春夏秋冬をお楽しみください。

4月

あつぎ飯山桜まつり、かながわグルメフェスタin厚木
かなキャラ大集合!、あつぎスイーツランド
朝市(通年、日曜)、夕焼け市(4~10月、水曜)

5月

子ども科学館まつり
厚木市緑のまつり
スポーツなじみDAY(3月も開催)

6月

アユ釣り解禁
あつぎ飯山あやめまつり

7月

プール開き

8月

あつぎ鮎まつり
あつぎジャズナイト
ナシ・ブドウ狩り

9月

防災訓練
市民体育祭

10月

市民芸術文化祭(12月まで)
あつぎハロウィーン
あつぎマラソン

11月

郷土芸能まつり
にぎわい爆発!あつぎ国際大道芸
ウィンターイルミネーション(2月まで)

12月

ちびっこマラソン&駅伝競走大会
年末の交通事故防止パレード
歳末火災特別警戒

1月

成人式
消防出初め式、イチゴ狩り(5月まで)
あつぎ駅伝競走大会

2月

市政記念日
「あゆコロちゃん」お誕生日おめでとうセレモニー

3月

古民家岸邸のひな祭り



あつぎ飯山桜まつり



アユ釣り



あつぎジャズナイト



あつぎ鮎まつり大花火大会



あつぎハロウィーン



あつぎマラソン



ウィンターイルミネーション



にぎわい爆発!あつぎ国際大道芸



古民家岸邸のひな祭り



「あゆコロちゃん」お誕生日おめでとうセレモニー